景観グループ

◆事故のない活動

徳地 恵男

私は昨年 12 月に全治３か月のけがを負ってしまいました。竹林の中を抜けて戻る途中、一瞬足元が浮いたように後ろにころげ落ちてしまい、切り株に背中を強く打ちました。今は完治し復帰することができています。みなさんにお世話と心配をかけました。本当にありがとうございました。

何度も事故の無いようにと会の中で指示されたり、みんなで確認をしたりしてきたのに残念です。私の反省としてこれから気を付けていきたいことをいくつか挙げてみました。一つは危険を十分認識することです。私は草刈りを主に環境整備をしていますが、作業に伴う危険と向き合っています。草が胸近くまで伸びていることがあります。足元はどうなのかわかりにくく、大きな石や切り株、倒れた木も隠れています。数年間の経験で土地の様子や困難な場所はだいたい把握していますが、事前の安全の確認や危ない所を片づけるなど作業場をより安全な場所にすることが必要です。二つ目は機械の取り扱いです。草刈り機、自動草刈り機モアー、チッパー粉砕機（枝を砕く機械）などを使用しています。作業には欠かせない道具ですが、ひとつ間違えば大けがになります。改めて正しい扱い方と作業中の周りへの注意や配慮が必要です。危険を意識することです。三つ目は足元の装備と体力です。事故の当日は長靴を履いていましたが、今は踏ん張りの効くトレッキングシューズに変えました。作業を続ける体力と踏ん張ることのできる筋力もいります。転倒しない体にするため、ラジオ体操とストレッチや筋トレを続けています。四つ目は無理をせず、余裕のあることです。私たちは周りからは高齢者とみられる年齢です。お互いに声をかけ、注意し合いながら余裕をもった作業が必要です。信頼し支え合える仲間がいてこそ安全な活動ができます。

果樹グループ

◆今から始める果樹園作り

有元 康人

今年度から発足した果樹園グループ。

フライングですが、前年度から活動を始め、蕎麦の栽培を行っていた実りの森を果樹園にするため、ブルーベリー、カキ、スモモ、アンズ、ザクロ、クリ、クルミなどの苗木を植えてきました。

現在、管理地の各所にあるウメや柑橘類、イチジク等の管理も含め、果樹グループで栽培を行い、会員の皆さまに旬の果物を提供できるよう活動を行っていきます。

グループとしていちばん最初に取り組むべきテーマは、一人一人のスキルアップです。

県の栽培センターや、果樹農家等への訪問で一年間の管理方法や施肥、剪定などの専門知識の習得が求められます。

コロナの影響でまだ始めていませんが、できるだけ早く進めていきたいと思っています。

果樹グループのメンバーは、会の顧問、参与、営繕仕事は何でもゴザレの強者、そして会の会計責任者、これから咲き誇る果物の花のような女性陣、いつまでも夢を持ち続けている明るく最強のメンバーです。

植樹した直径１ｃｍ程度の幹が５ｃｍ、10ｃｍと育ち、果樹の花が咲き誇る実りの森に、会の皆さんの足が自然に向いていくような、お茶でもしたくなるような、環境作りをコンセプトに取り組んで行きます。

始めてみると、現在の人員では果樹園の面積も広く取り組むべき仕事量が多いことに気が付きました。

これから始める果樹園作りを、一緒に取り組んでいこうと思ってもらえる仲間を募集していますので、よろしくお願いします。